

京滋衆院議員反応

安全保障関連法案が16日衆院本会議で可決され、京滋の衆院議員もさまざまな反応を見せた。

公明党の竹内譲氏(比例近畿)も「論点は出尽くした。民主党は全体的な対案を出して議論を深めるべきだった」と淡々と語った。

京滋衆院議員反応

安全保障関連法案が16日衆院本会議で可決され、京滋の衆院議員もさまざまな反応を見せた。

本会議後、自民党の谷垣禎一幹事長（京都5区）は「日本の平和を守り、戦争を未然に抑止する極めて大事な法案だ。衆院を通じたことは大変ほっとしている」と話した。公明党の竹内譲氏（比例近畿）も「論点は出尽くした。民主党は全体的な対案を出して議論を深めるべきだった」と淡々と語った。

ただ、自民党内には法案に対する世論の反発から、来年夏の参院選に向け警戒感も出ている。京都の衆院議員の一

谷垣氏「ほっとしている」 穀田氏「共闘発展させる」

人は「法案に対し批判的な反応が地元でも広がっている。来年の参院選に影響が出る」と心配そうに語った。

伊吹文明元衆院議長（京都1区）も派閥総会で若手衆院議員に「可決の是非は次の選挙で判断される。選挙区でよく説明し理解を得ておくべき」とくぎを刺した。

一方、民主党の前原誠司元代表（京都2区）は「自衛権の拡大は憲法違反の疑いがあり、国民が疑念と不安、反対を表明している。領域警備法などの対案は取り上げられず、数の力で強行した」と批判した。対案の提出を訴え維新の党との共同提出につながった。「最後はら党がそろって退席した。参院審議につながる」と気を引き締めた。民

主の泉健太氏（比例近畿）も本会議を退席したのちに参加した野党の集会で、「各党が全国で頑張りましょう」と共闘を訴えた。

共産党が本会議を退席するのは「異例」。穀田恵二国対委員長（比例近畿）は「野党共闘を求める国民の声で、戦術の違いを乗り越えた。反対運動は空前の広がりを見せており、共闘を発展させることで国民的な戦いの広がりにつながりたい」と話した。

今後、審議は参院に移るが、民主の林久美子参院議員（滋賀選挙区）は「安倍政権は立ち止まって考えろ、この声が無視できないほどの世論の高まりをつくりたい」と述べ、巻き返していく姿勢をみせた。（東京支社編集部）